

マテリアリティとKPI

マテリアリティの解決にむけ、33個のKPI(全社)に対し具体的なKPIと数値目標を設定しました。主要なものを掲載しています。

No.	マテリアリティ	マテリアリティの解決手段	KPI(全社)	具体的なKPI	数値目標	2024年度実績
1	安心して、 活力がわく 社会の実現 	社会基盤整備を通して培った強みを基に、多様な能力を結集した新たな価値創出	強みを活かした案件の拡大	企画提案型建設の取り組み件数	3件/年(2030年度まで)	4件
			社内での事業連携	東南アジア、南西アジアのODA地下鉄工事受注件数	2025年度までに累計3件	0件
		環境にやさしい レジリエントなまちづくり		新規事業(AVA・RES)と建設事業(土木・建築・国際)事業の連携案件数	2030年度までに累計13件	6件
			環境性能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 中高層木造建築の取り組み ZEBの設計技術の進化 保有物件の再エネ化 環境配慮型コンクリートの実建物への適用 	<ul style="list-style-type: none"> 2件/年(2030年度まで) 60%(2025年度)、90%(2030年度)(竣工時ZEB/ZEH化率)^{*1} 100%(2030年度) 1件/年以上(2030年度まで) 	<ul style="list-style-type: none"> 1件 11件(ZEB/ZEHの取組件数) 100% 1件
			国土・まちの強靱性の向上	国土・まちの強靱化にむけ、各事業本部において具体的なKPIおよび数値目標を設定し取り組みます。		
		地域・顧客の想いをつなぎ、人々の活力が生み出される地域やコミュニティをつくる	地域の活性化に資する開発・事業等	まちづくり事業モデルの構築	2025年度までに累計3件	0件
			安定した受注	安定した受注にむけ、各事業本部において具体的なKPI及び数値目標を設定し取り組みます。		
		事業活動を通じた環境・生物多様性保全、サーキュラーエコノミーの実現	脱炭素社会の形成促進	「ZERO30ロードマップ2023」 <ul style="list-style-type: none"> あらゆる事業活動のスコープ1+2の2020年度比削減率 竣工引渡し建物の運用段階におけるCO₂排出量(スコープ3カテゴリー11)の削減率 再生可能エネルギー事業の発電量(創エネ発電量) 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度比54.8%削減(2030年度) 2020年度比27%削減(2030年度) 108千MWh(2030年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度比38.4%削減 2020年度比31.2%削減 12千MWh
			生物多様性への配慮、自然との共生	生物多様性保全活動実施数	全現場にて実施(2030年度)	100%
			循環型社会の形成促進	最終埋立処分率	2.5%未満(2030年度)	3.3%
2	現場力を 最大限発揮できる 組織づくり 	信頼される現場力を高め続けられる組織の構築	技術の継承	スタンダードコース(若手社員専門力養成)修了認定率	100%(認定者数/対象者数(認定年次))(2025年度)	100%
			現場の省力化	現場のDX推進度	DXエンゲージメント(DX推進アンケート)前年度比3%向上(2025年度、2030年度)	前年度比0.7%低下
			お客様満足度の向上	施主からの評価	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省工事の工事成績評価点対象年度平均点(80点以上/年) 民間工事竣工時アンケート評価S・A評価を99%以上獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 79.9点 98.5%
			現場支援体制の充実	各事業本部において具体的なKPIおよび数値目標を設定し、現場支援体制の充実を図ります。		
		個々の現場の知を組織の知へ	組織知化の進展	<ul style="list-style-type: none"> 建物用途別のディテール集の整備 日本人1人あたり出来高の増加 人財データ可視化進捗率 	<ul style="list-style-type: none"> 2回/年(2030年度まで) 日本人1人出来高8.0億円/年(海外土木)、22億円/年(海外建築)(2030年度まで) 100%(2025年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 2回 6.1億円(海外土木) 21.3億円(海外建築) 73%
			技術研究所による技術的ステータスの目標達成数	<ul style="list-style-type: none"> プレス発表 特許出願 学会発表 外部機関からの技術賞受賞 	<ul style="list-style-type: none"> 24件/年(2030年度まで) 15件以上/年(2030年度まで) 筆頭著者として1編以上/人・年(2030年度まで) 2件/年(2030年度まで) 	<ul style="list-style-type: none"> 20件 31件 1.8編/人 3件
ナレッジデータ活用、施工管理DX	DXビジョン施工管理DX施策(暗黙知のナレッジ化)の進捗	2件/年(2030年度まで)	2件			

*1 2025年度より竣工時のZEBまたはZEH化率に目標値を変更

No.	マテリアリティ	マテリアリティの解決手段	KPI (全社)	具体的なKPI	数値目標	2024年度実績
3	価値創出を最大化できるパートナーシップの形成 	持続可能なサプライチェーンの構築	人権デューデリジェンスの継続的な実施	人権デューデリジェンスの実施企業数	400社以上実施	457社
			建設技能労働者の育成サポート	・西松マイスターおよび上級職長の現場就労率 ・建設キャリアアップシステムのタッチ率	・60% ・土木90%、建築80% (2025年度)	・53% ・74%
			協力会社との連携	・N ネット発注率 ・「パートナーシップ構築宣言」に関するアンケート調査の実施	・60%以上 (2025年度) ・400社以上実施	・59% ・457社
		新たな価値創出に向けた地域、企業との連携	地域との連携	・自治体などとの包括連携協定 ・新たな市場における売上確保	・2025年度までに累計3件 ・売上規模50億円/年 (2030年度まで)	・累計2件 ・0件
			異業種との連携	M&Aによる新しい事業組織の組成	2028年度より建設請負工事開始	0件
4	安心とワクワクにつながる技術戦略 	技術開発・技術活用による施工の効率化	技術開発による施工の効率化	生産性向上 (トンネル工事の自動化・無人化技術等) ほか、社会・現場に寄与する技術の開発	10技術以上/年 (2030年度まで)	12技術
			技術活用による施工の効率化	設計BIM確認申請件数および申請率*2 ・各フェーズでのBIM導入率 ・BIM活用パッケージ導入数	1件 (2025年度)、80% (2030年度)	—
			保有 (開発) 技術の現場活用	50技術以上/年 (2030年度まで)	67技術	
		未来を見据えた技術開発	DX技術開発	DXビジョン (スマート現場) 各施策の進捗 技術開発ロードマップに合ったDX技術 (省人化・生産性向上) 開発目標の達成度	2プロジェクト/年 (2030年度まで) 平均開発目標達成度 70%/年 (2030年度まで)	2件 78%
			防災・減災・リニューアル工事に資する技術開発	技術開発ロードマップに合った防災・減災・リニューアル工事に資する技術開発目標の達成度	平均開発目標達成度 70%/年 (2030年度まで)	75%
			脱炭素・エネルギー・自然共生・資源循環に資する技術開発	技術開発ロードマップに合った脱炭素・エネルギー・自然共生・資源循環に資する技術開発目標の達成度	平均開発目標達成度 70%/年 (2030年度まで)	100%
5	多様な人材がワクワクし活躍できる仕組みづくり 	みんなが働き甲斐をもって力を発揮できる職場環境の提供	多様な人材の活躍	・女性の採用比率 ・女性管理職比率	・新卒採用20%以上 ・2.0%以上 (2025年度)	・16.1% ・0.65%
			多様な人材を活かす施策の実行	・男性育児休業取得率 (育児目的休暇含む) ・上司部下間の対話 (1 on 1) 実施率 ・DXビジョン (ワークスタイル) 施策の進捗	・100% ・100% (2025年度) ・5プロジェクト/年	・75.0% ・70.9% ・5件
			社員がいきいきと活躍できる状態	・社員のエンゲージメントスコア ・ストレスチェックの高ストレス者率 ・定期健康診断後の精密検査受診率 ・離職率	・3.71以上 (2025年度) ・7.5%以下 ・80%以上 ・1.5%未満	・3.71 ・7.7% ・60.2% ・2.57%
			労働環境改善の推進	度数率 (休業4日以上)	0.4以下 (2025年度) 0.2以下 (2030年度)	0.88
		組織横断的な思考の浸透	組織横断・連携マインドの醸成	連携事業への従事や挑戦を賞賛する表彰制度の創設	2025年度より実施	—
組織横断・連携の仕組みづくり	組織横断・連携を評価する仕組みの構築	2025年度より実施	—			
6	コンプライアンスの遵守 	リスク管理体制の強化	リスク管理体制の強化	・情報リスクに対するセキュリティ対策の実施 ・リスク・機会マネジメントの有効性 ・BCP訓練	・重大なインシデント (レベル2以上) の発生2件以内 ・重大なコンプライアンス違反の発生件数0件 ・安否確認訓練応答率 平日昼間: 3時間以内90% 休日夜間: 6時間以内90%	・0件 ・0件 ・平日91%、 休日64%*3
		コンプライアンス教育の充実と継続	コンプライアンス教育の充実と継続	コンプライアンス研修受講率	100%	100%

*2 2025年度より設計BIM確認申請件数および申請率に目標値を変更

*3 3時間以内の数値